

## 第1回外部評価委員会会議録

日時：平成28年12月15日（木）  
午後1時30分から3時30分

場所：県立農林水産総合技術支援センター大会議室

### (1) 平成27年度外部評価結果の反映状況報告

徳島農業支援センター所長，鳴門藍住農業支援センター所長，農業大学校長から平成27年度の評価に基づく反映状況について報告。

#### (質疑)

##### ①徳島農業支援センター

委員：すだちの収穫について，収穫する人材が少ないために収穫できなかった割合はどれくらいあるのか。

回答：統計データはないが，加工を含めるとほぼ全て収穫できている。

委員：すだちヘルパーはボランティア（無償）か。

回答：ボランティアではなく有償で実施している。

委員：学生に対し年度当初に農作業のアルバイト情報を提示できれば，興味を持っている学生もいると思う。

##### ②鳴門藍住農業支援センター

委員：短葉性ネギについて，普通の白ネギと差別化しPRすべきでないか。料理の方法とかの広報活動はしているのか。

回答：消費地での試食やレシピの紹介などを行っている。

委員：このネギは，将来的にどんな売り方を目指すのか。

回答：短葉性ネギの青い葉の部分まで美味しいという特長を活かし，他産地と違った売り方を狙いたい。

委員：短葉性ネギは，大変美味しく有望であるが，まだまだ知らない方が多いので，しっかり宣伝をしてほしい。

### (2) 試験研究業務の評価

- ・試験研究の取組内容について

### (3) 総合評価

- ・新技術・品種開発の取組について

今年度から産学官の連携協定により取り組んでいる「マリンサイエンスゾーン」及び「フォレストサイエンスゾーン」について概要説明を行った後，平成29年度の試験研究の取組内容と今後の方向性について，各研究課毎に説明し，委員から質問及び評価並びにコメントをいただいた。

### ①経営研究課

委員：薬用作物の研究は、ドクダミ、ミシマサイコ以外に何かあるか。

回答：チョウセンモミジなどがある。

委員：薬用作物の具体的な販売先に目処はあるのか。

回答：ミシマサイコは大手メーカーとの接触もあるし、県西部の生薬会社などと研究を行ったり、県が主催する薬草研究会ではメーカーや大学とも連携し意見交換や情報共有を行っている。

委員：かんしょの輸出では、青果として販売するだけでなく、食べ方の提案が大切である。

### ②農産園芸研究課

委員：高軒高にすると、ハウス内の環境制御が簡単になるのか。

回答：制御が簡単になるのではない。高軒高により光環境がよくなる。

現在、日本では軒高が2メートルだが、施設園芸先進国といわれるオランダでは、軒高が5メートルとなっている。日本でも次世代型と言われるものが4メートルだが、今後、導入されるハウスでは5メートルになる可能性がある。

軒高が高くなるほど、光合成が良くなり、収量が増加したり、品質が向上しやすくなる。

委員：幸水、豊水より熟期が遅いナシの有望品種の開発は、まだ時間がかかりそうですか。

回答：有望と考えていた系統で、みつ症が発生しやすいことが分かった。このため、別の系統から探さなければならなくなった。

委員：鳥取ではいろいろな品種を栽培し、長期間販売している。鳥取大学が開発した品種もある。いい品種ができることを期待する。

### ③資源環境研究課

委員：現在、20cm位の径の木材が主流となっているが、これからは、戦後に植えた木が大径材になってくるので、大径材の利用についての研究を考えてほしい。ナスの栽培で天敵の増殖にゴマを植えていたが、ゴマをシカに食べられた。

委員：イチゴ栽培では天敵利用農家が増えてきた。天敵は寒いと越冬しないし、春に入れると、ダニの増殖のほうが多く、増やし方が難しいので、バンカーシートはいい。開発を進めてほしい。

### ④畜産研究課

委員：酪農では後継牛の確保が大事。性判別精液は、受胎率が低いので、使用者が少ない。受胎率を上げる研究をお願いしたい。

回答：現在の技術では、受精卵の一部を切って調べてから増殖させているので、受胎

率は目標の60%より低い50%前後。徳島大学と共同で、受精卵を切らないで性判別できる技術を開発したい。

委員：鶏肉生産技術の調査で、未利用資源として考えているのは何か。

回答：緑色の残渣を考えている。

#### ⑤水産研究課

委員：硝酸塩センサーで硝酸塩濃度を測って、どうするのか。

回答：養殖時期に水の中の栄養塩、特に窒素が不足する。

現在は、漁場の栄養塩をSWATTという機器で測っているが、結果が出るまでに1日ぐらいかかる。硝酸塩センサーは紫外線を照射することで、より迅速に計測できるので、硝酸塩センサーの導入により、漁業者への迅速な情報提供に努めたい。

委員：動かせるものならいいが、栄養塩が少ないことが分かった場合、どのように対応するのか。

回答：硝酸塩が少なくなってきたら、色落ちの前に収穫するとか、多くなるのを待ってから収穫するなどの対応をとる。

委員：栄養塩は毎週調べてもらっており、漁業者にとって重要な情報である。10年前からの情報も見える。しかし、海況情報が去年と同じでも、違う状況が発生していて、原因が分からないことがある。窒素などこれまでの情報以外で、何か要因がわかれば、ありがたい。

回答：栄養塩は減少傾向にある。現在は、栄養塩情報の提供が月3回だが、硝酸塩センサーを使って、より綿密な情報提供を行いたい。また、温暖化で海水温が上昇し、同じ時期でも同じように海藻の養殖ができない。綿密な調査とともに、潮流などほかの要因の分析についても今後検討したい。

#### ⑥まとめ

委員：今日の話は専門性が高く、一般の主婦には難しい内容であった。

外部評価委員会は、生産者の方も参加しており、生産者の意見を吸い上げる場として意義があると思う。

未来の生産者や研究者づくりのため、幼稚園や小学生の小さいうちから種まきをしておくことが必要と思う。

人口が減る中で、農林水産業を支える人材の育成も同時進行でお願いしたい。

委員：小学生からの動機付けが大事で、高校生からでは遅い。